

第5章 地区別配置方針

1. 中央地区

緑の目標・方針

立田山を背景に、熊本城の緑や白川、坪井川の清流をもつ、活気にあふれ、風格のある緑の街を創ります。

＜緑の配置方針＞

○（白川以西区域）森の都のシンボルとなる緑づくり

立田山、花岡山を背景として、熊本城周辺地区や中心市街地、熊本駅前等の重点的な緑化を推進するとともに、白川、坪井川の緑と季節感豊かな街路樹でつなぎ、森の都のシンボル性を高める緑の街を創ります。

○（白川以東区域）中心市街地から連なる緑づくり

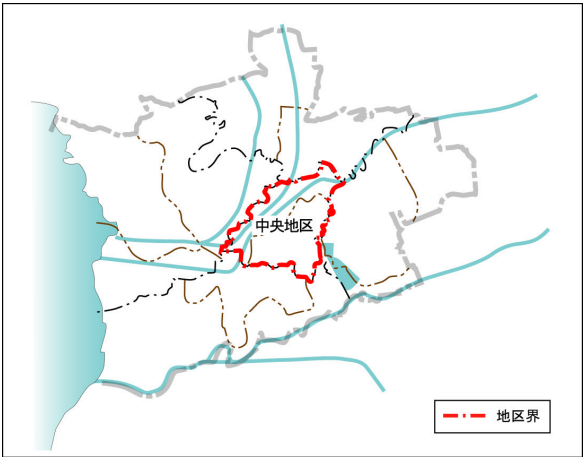
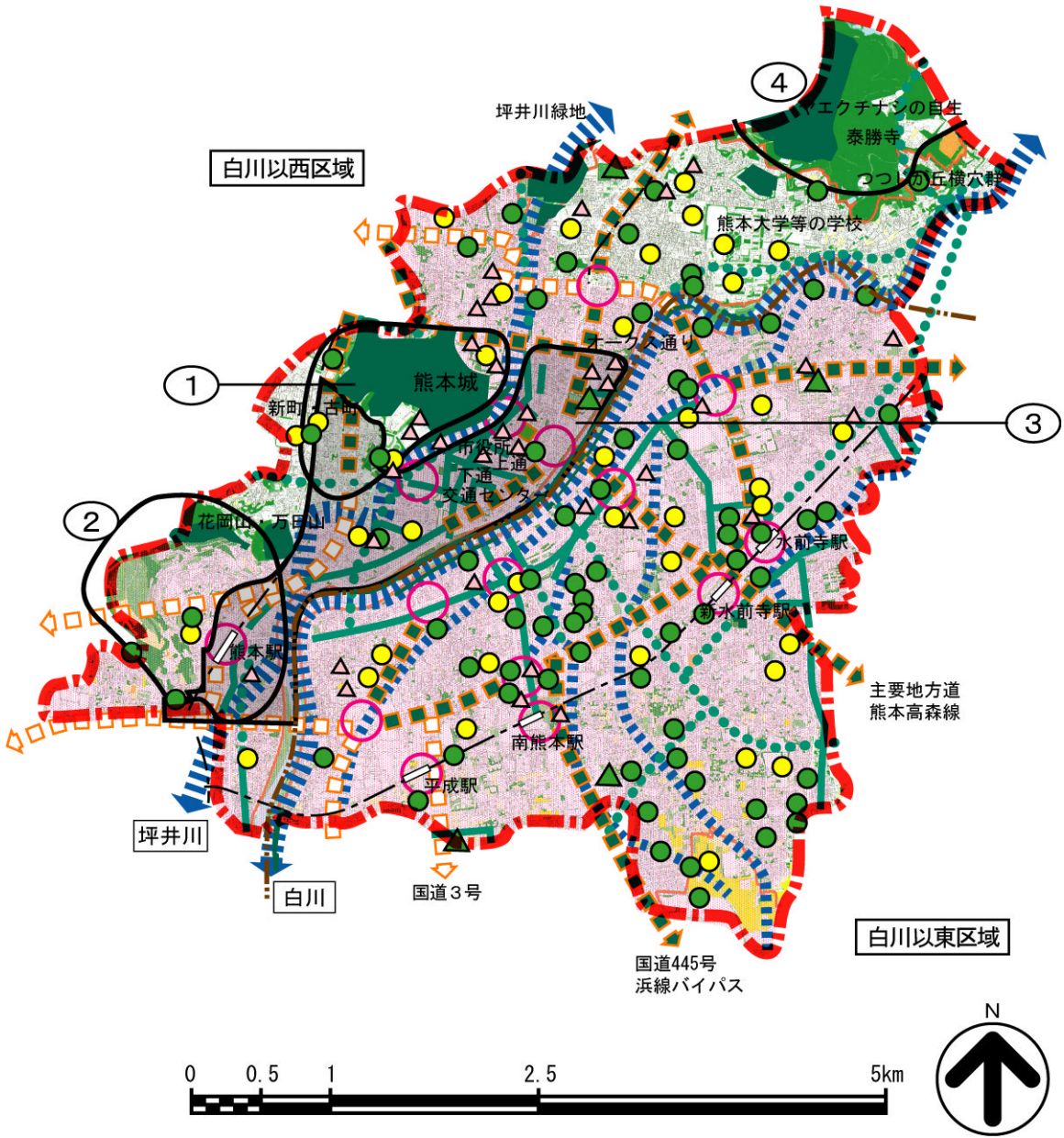
幹線道路の街路樹を軸として、緑の多い住宅地における屋敷林や庭木を保全するとともに、緑の少ない地域における緑化を推進し、中心市街地から連なる緑量感のある緑の街を創ります。

中央1	熊本城公園の整備と周辺地区の緑化推進
	白川、坪井川、大井手の親水空間の整備と保全
中央2	花岡山万日山風致地区内の樹林地の保全と熊本駅周辺地区のふるさとの顔づくり
	都市軸となる幹線道路の街路樹の整備と育成 (は街路樹のない区間)
中央3	中心市街地の緑化推進
中央4	立田山のヤエクチナシの自生地、つつじが丘古墳群の保全

住区基幹公園	
	街区公園
	近隣公園
	地区公園 ※1,000平方メートル以上を図示
	街路樹の整備と育成 (は街路樹のない区間)
	学校の緑化推進
	公共施設の緑化推進
	緑の少ない校区の緑化推進
	交差点・駅周辺などの緑化推進
	良好な樹林の保全 (現況) 保存樹木 216本
	水田
	畑地
農地の保全と活用	

地区の現況

本地区は熊本市の中心部に位置し、早くから市街地が形成され、商業街やオフィス街が発展しています。このため土地の高度利用がなされ、緑が他の地区と比較して少ない地区です。しかしながら熊本城を始め、花岡山や万日山等のまとまった緑地が存在するとともに、白川や坪井川の河川敷等に緑が連なっています。ただ、白川以東は平坦地であり、早くから住宅地が形成され、最近ではマンションが多数建設され、まとまった緑地は存在していません。



凡例

	使用している住区基幹公園以外の都市公園
	草地
	水域
	市域
	地区界
	区域界
	市街化区域界